

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイの付着が増加する見込み

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称：ハナ)

ラーバは久栗坂沖で2.8個体/m³見られました(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称：コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で5.0個体/m³、川内沖で575.8個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません。

(4) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は川内沖で0.8個体/m³見られました。

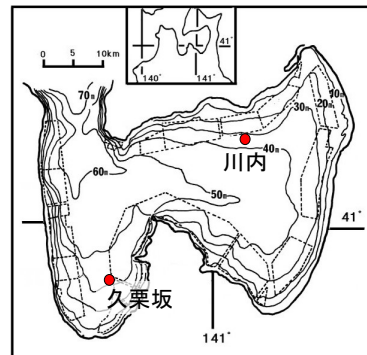


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
久栗坂沖	R2.3.10	2.8	1.1	5.0	9.4	0.0	0.0
川内沖	R2.3.10	0.0	0.0	575.8	91.4	0.0	0.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は6～9℃台と平年よりかなり高めからはなはだ高めになっています。

(1) ユウレイボヤ

ラーバが再度出現し、累積ラーバ数は久栗坂沖で15.6個体/m³、川内沖で2.4個体/m³となっています。

西湾では、秋に大量付着したユウレイボヤの産卵により、現在もラーバが出現していることから、出荷時の付着量がさらに多くなる可能性があります。

(2) キヌマトイガイ

東湾ではラーバが増加しています。西湾、東湾とも例年4～6月にラーバが多く出現するので、籠や耳吊り、ホタテガイやマボヤの採苗器への付着が増加する可能性があります。

(3) アミクサ、オベリア類

小枝とクラゲはほとんど見られていないので、付着は少ない可能性があります。

3 洋上籠洗浄の注意点

ホタテガイに異常貝が多く見られる場合、洋上籠洗浄を行うことにより、さらに異常貝が増え、へい死する危険性があります(図4)。

洋上籠洗浄は異常貝の状況を確認しながら行いましょう。また、作業はホタテガイが凍結しないように暖かい日に行うようにしましょう。

4 お知らせ

今季の付着生物ラーバ情報は今回で終了です。今後のキヌマトイガイ、ムラサキイガイのラーバの出現動向については、ホタテガイ採苗速報を参考にしてください。

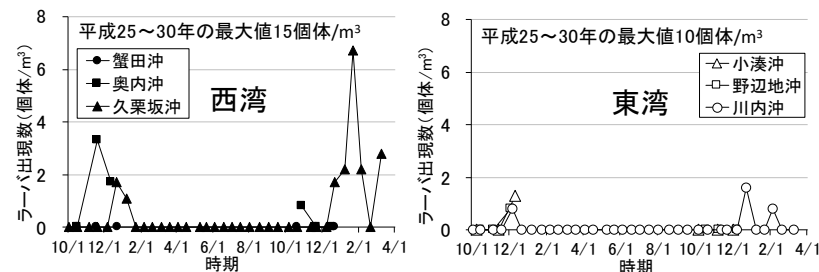


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成30年10月～令和2年3月)

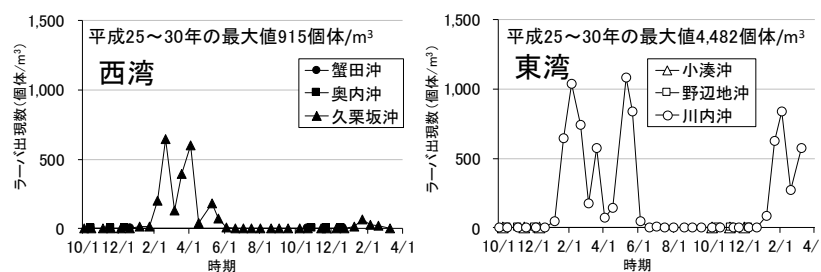


図3 キヌマトイガイ出現数の推移(平成30年10月～令和2年3月)

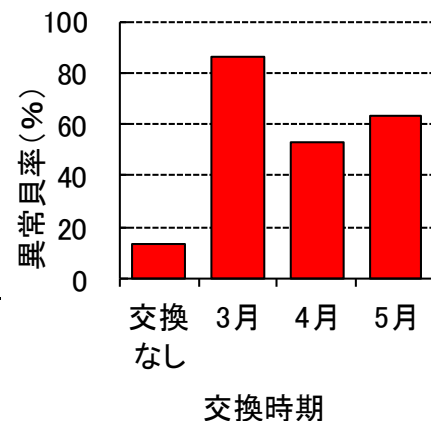


図4 付着物除去を目的としたネット交換によるホタテガイの異常貝率(西湾で平成29年6月測定)

